

多面的機能支払交付金に関する ロジックモデルの深化(案)

平成 28 年 12 月 1 日

農 林 水 産 省

目 次

1. ロジックモデル（案）の概要	1
2. ロジックモデルの深化	2
3. 取組事例によるロジックモデルの評価	3
4. 各種データによるロジックモデルの評価	6
5. ロジックモデル（案）	7

（参考）資料５－２：取組事例によるロジックモデルの評価集

1. ロジックモデル（案）の概要

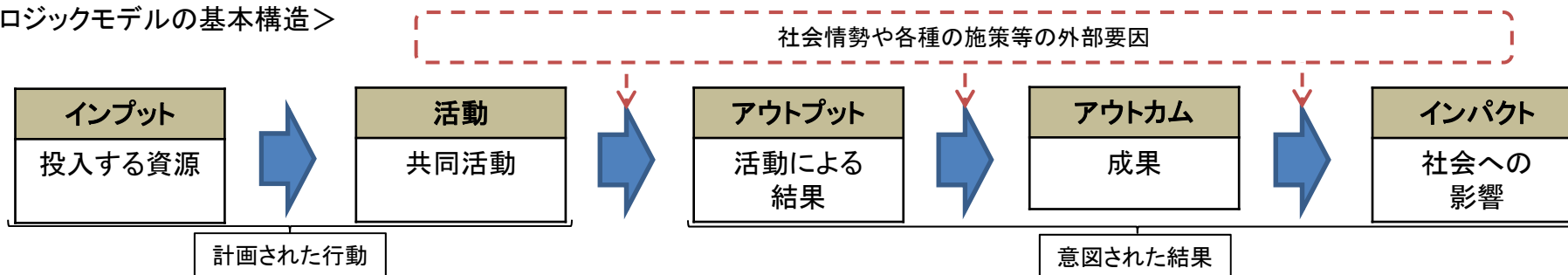
（1）目的

- 本交付金の中間評価に当たって、活動（手段）による効果（成果）を評価するため、活動がその目的を達成し、成果を上げるまでのプロセスを論理的に説明するためのロジックモデル（案）を整理。

（2）考え方

- インプット→活動→アウトプット→アウトカム→インパクトの5段階のプロセスとした。
- 「インプット」は、活動に必要な、人（農業者、非農業者）、地域資源（農用地、水路、農道、ため池）、本交付金とし、「活動」は3支払で実施できる各活動とした。
- 「アウトプット」は活動による結果、「アウトカム」は活動による成果、「インパクト」は社会への影響として、各活動による効果を整理。
- 「インパクト」は、施策の理念の実現をゴールとし、『食料・農業・農村基本法』や『農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律』の基本理念を基に「農業の持続的な発展」、「多面的機能の発揮」、「農村の振興」とした。
- 中間評価における6つの評価の視点は、各種のアウトカム（成果）に対するより包括的な概念として、ロジックモデル中に整理した。
- 本交付金のアウトプット・アウトカム・インパクトについては、社会情勢や各種の施策等の外部要因の影響を考慮する必要があるが、手段と成果の関係性を明示するため、本交付金の影響に絞って整理した。

<ロジックモデルの基本構造>



2. ロジックモデルの深化

(1) 取組事例によるロジックモデルの評価

- 各種事例における取組の内容及び効果を用いて、ロジックモデルのインプットからインパクトに至るまでのプロセスを評価。その際、必要に応じて、アウトプット等の項目を適宜、追加する。

(2) 各種データによるロジックモデルの評価

- アンケート調査、実態調査、統計データ等を用いて、ロジックモデルのアウトプット、アウトカムの発現状況进行评估する。

<使用データ>

- ① 活動組織へのアンケート調査（平成27年度）
- ② 活動組織による自己評価及び市町村評価の試行調査（平成27年度活動）
- ③ 市町村への実態調査（平成28年度）
- ④ 統計データ（農林業センサスデータ等）

<評価方法>

- ・ ①及び②については、調査等対象組織の活動項目と、効果に係る回答をクロス集計し、アウトプット、アウトカムの関係項目の発現状況进行评估する。
- ・ ③については、市町村の取組理由等と、効果に係る回答をクロス集計し、アウトプット、アウトカムの関係項目の発現状況进行评估する。
- ・ ④については、農業集落の多面的機能支払の取組の有無や、旧市町村単位での多面的機能支払の取組カバー率と各調査項目のデータを比較し、効果の発現状況进行评估する。

3. 取組事例によるロジックモデルの評価

○ 取組事例における各種の活動から生じているアウトプット・アウトカムを整理。

(イメージ図)

1 トキの餌場となる水田生物多様性の取組

中間農業地域

【地区概要】

- ・取組面積64ha (田64ha)
- ・資源量 開水路10km、農道11km
- ・主な構成員 自治会、婦人会、青年会、集落長OB会
- ・交付金 約3百万円(H28)

(農地維持支払
資源向上支払(共同))

A

生物調査や草刈・泥上げ等の
維持管理によるアウトプット・
アウトカム

しょうみょうじ さとし
正明寺地域資源保全会 (新潟県佐渡市)

○ 本地域は、小佐渡東部から国仲平野にかけて広がる水田地帯で、トキの野生復帰ステーションが設置され、トキの放鳥を実施。トキを目当てにした島外からの観光客が増加。

そば祭り等の地域住民との交流活動、トビシマカンゾウの植栽、担い手の農地周りの施設を集落ぐるみで保全管理。

維持され、トキの生息環境が向上。トキをシンボルにした認
識活動等を通じたコミュニティ機能の向上や共同活動によ
る担い手となる農業生産法人の負担が軽減。

活動開始前の状況や課題

B

植栽活動や地域住民との交
流活動によるアウトプット・ア
ウトカム

○ 本地域は、小佐渡東部から国仲平野
にかけて広がる水田地帯であり、トキの
野生復帰ステーションが設置されている。

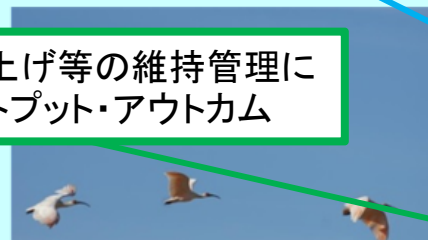
物の確
り組む。
23年度
島外か

らの観光客が増加。

○ 平成19年度からは、農地・水・環境保
全向上対策に取り組み、農村環境を向
上。

C

草刈・泥上げ等の維持管理に
よるアウトプット・アウトカム



正明寺の上空を舞うトキ

取組内容

○ 生物調査、除草剤を使わずに草刈り
する等の施設の維持管理を実施。



スロープ水路を活用するサダガエル(固有種)



農業者がトキと生きものを
守る農法のガイドする様子



地域内の交流を深めるそば祭りの様子

○ そば祭りや講演会等の地域住民との
交流活動や市の花であるトビシマカン
ゾウの植栽による景観形成を実施。

○ 担い手の農地周りの施設を集落ぐる
みで保全管理。

取組の効果

○ トキの餌となる多様な水田生物の生息環
境が維持。トキが餌場として利用する頻度
が増加。

(・生きもの調査の結果:H19年度17種→H27年度20種)



探検地点分布(環境省提供)(赤が濃いほど出現頻度が高い)

○ 佐渡市の「朱鷺と暮らす郷づくり認証制
度」の認証米の栽培を支援。

○ 活動を通じて生物の知識を習得した農業
者が、修学旅行の受入れや観光客向けに
ガイドを行い、農村環境をPR。

(・修学旅行の受入れ:H23~27年度でのべ250人
・観光客向けガイド:H26~27年度でのべ680人)

○ 交流活動等により、地域資源の保全管理
に関する理解が非農家を含めて醸成し、コ
ミュニティ機能が向上。

○ 共同活動により、施設の機能が維持され
地区内の農地の約8割の引き受けている
農業生産法人の負担を軽減。

2

3

3. 取組事例によるロジックモデルの評価

○ 整理した内容を基に、各種の活動に関連するアウトプット・アウトカムを線で結ぶ。

(イメージ図) ロジックモデル (分割版)

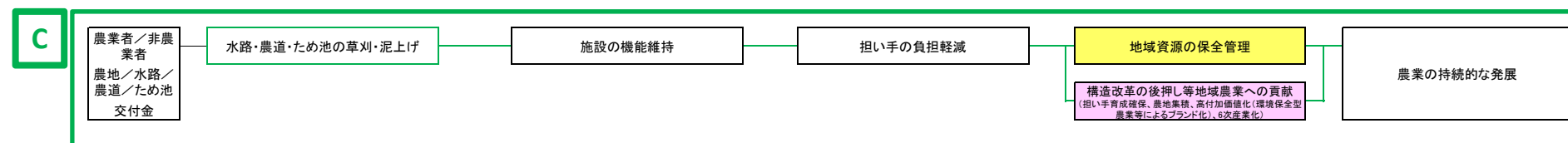
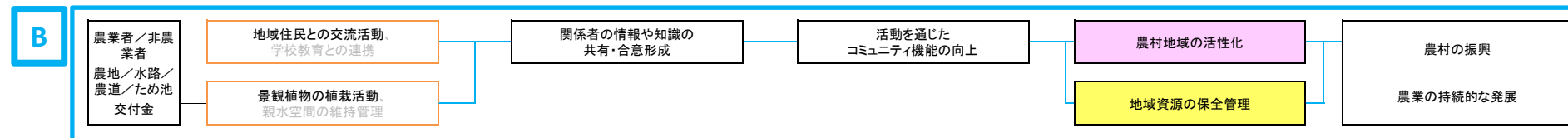
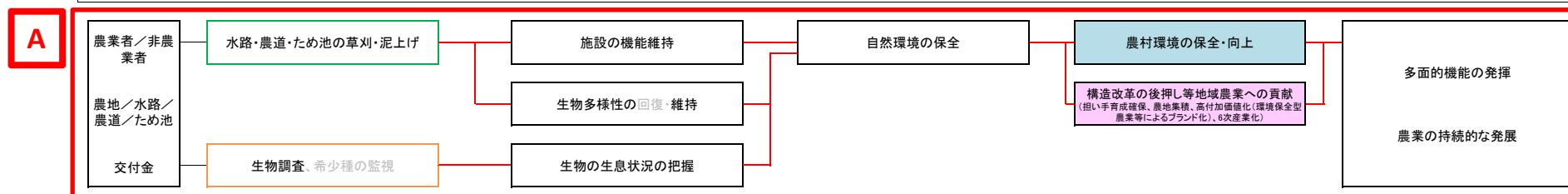
前ページで整理したアウトプット・アウトカムをつなぐ線

A

B

C

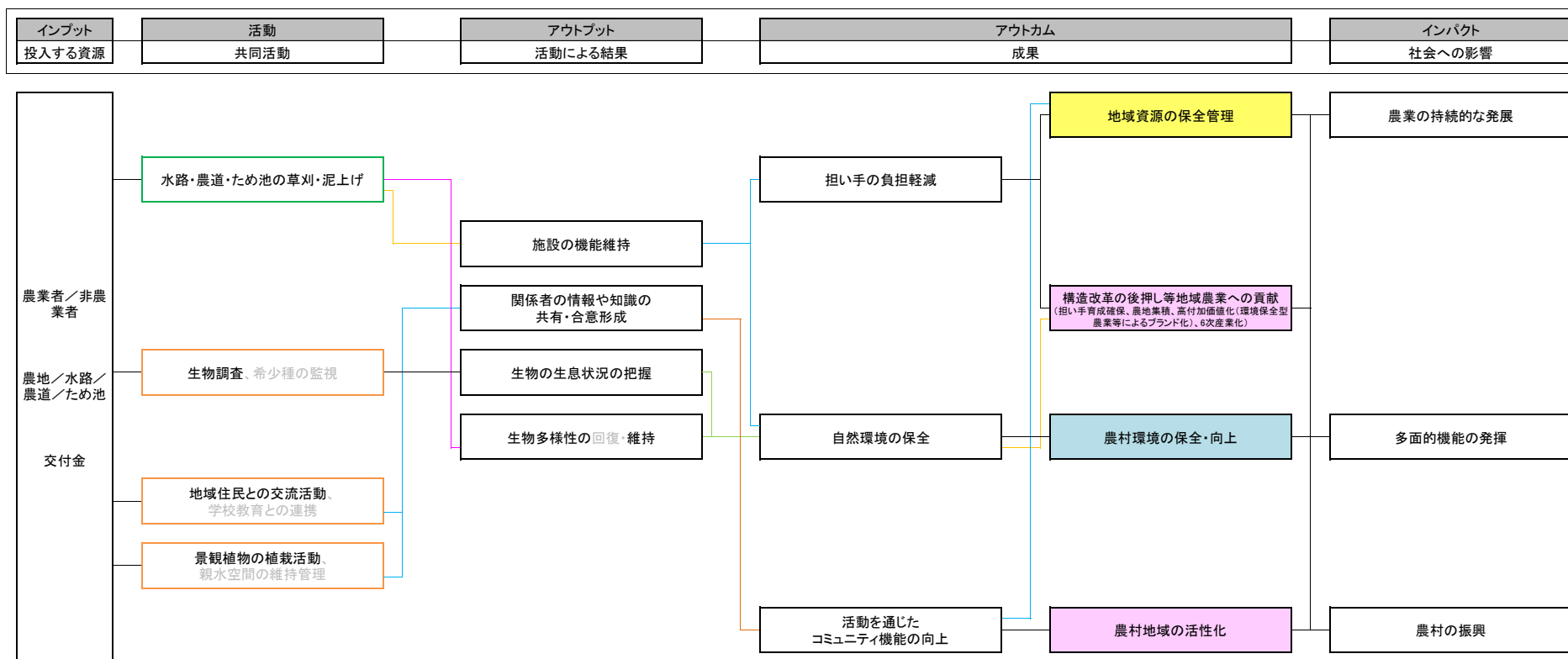
インプット	活動	アウトプット	アウトカム	インパクト
投入する資源	共同活動	活動による結果	成果	社会への影響



3. 取組事例によるロジックモデルの評価

○ 整理した内容を基に、各種の活動に関連するアウトプット・アウトカムを線で結ぶ。

(イメージ図) ロジックモデル (集約版)



4. 各種データによるロジックモデルの評価

○ 各種データからアウトプット・アウトカムが発現状況を整理。

(イメージ図)

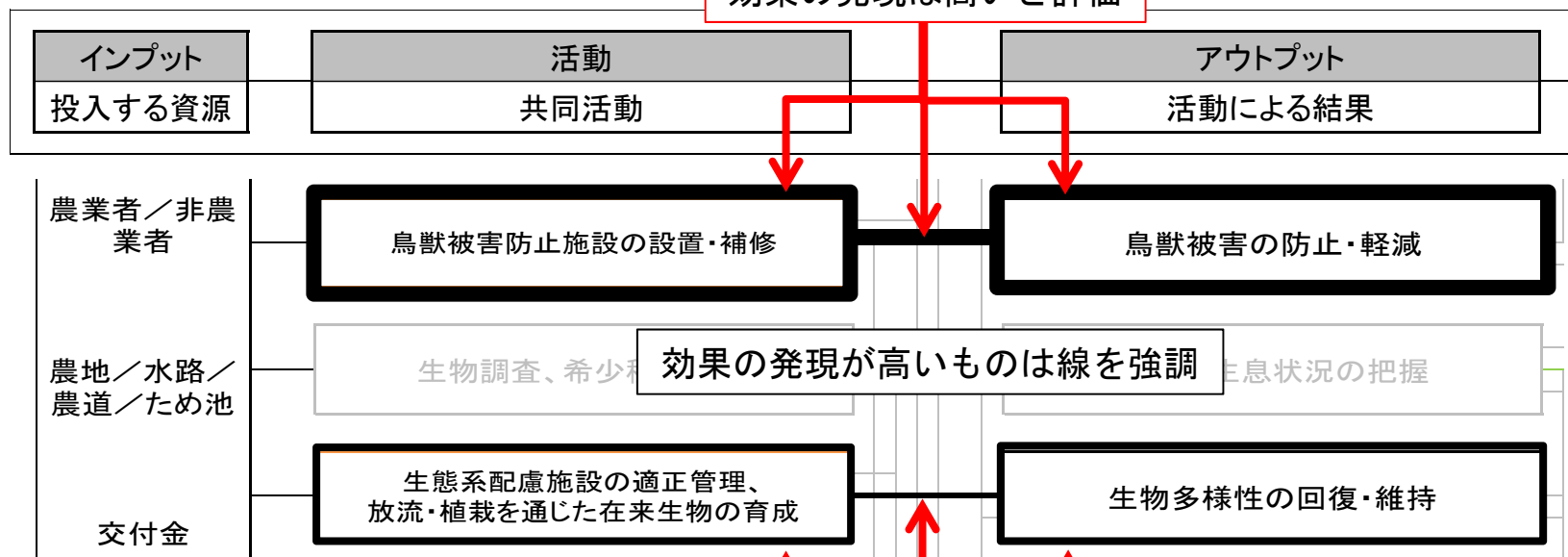
活動組織へのアンケート調査結果（平成27年度）

【問】 多面的機能支払交付金がなくなった場合、どのような問題が発生するか
4. 農用地への鳥獣被害が拡大する

【結果】 86.4%※ が拡大すると回答（261組織／302組織）

※農用地への鳥獣被害対策を行うことを取組目的としている活動組織について集計

効果の発現は高いと評価



効果の発現は中程度と評価

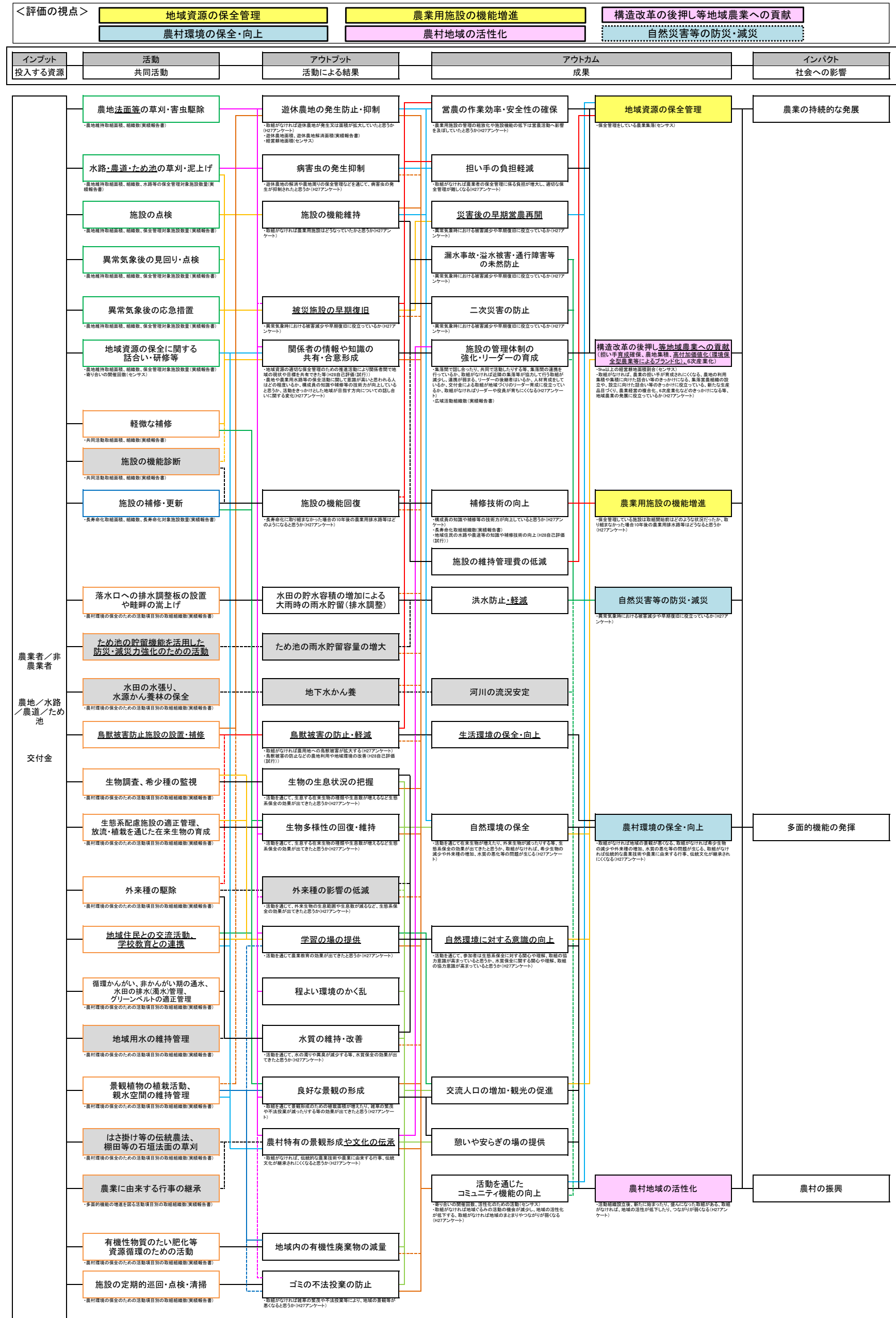
活動組織へのアンケート調査結果（平成27年度）

【問】 活動を通じて生息する在来生物の種類や生息数が増えたり、外来生物の生息範囲が減るなどの生態系保全の効果がでてきたと思うか

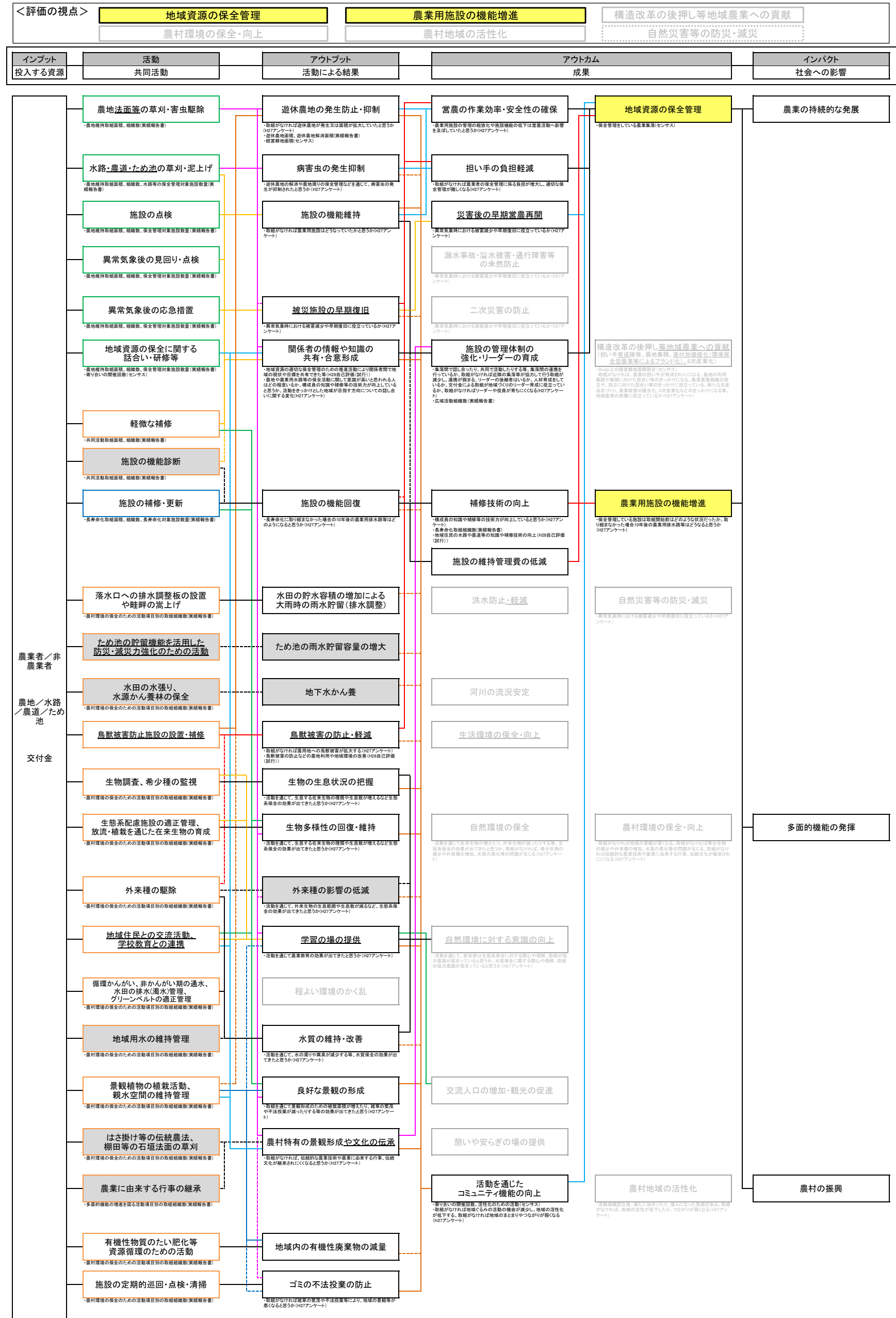
【結果】 59.6%※が「かなり出てきたと思う」及び「出てきたと思う」と回答（149組織／250組織）

※生態系保全に関する活動を行っている活動組織について集計

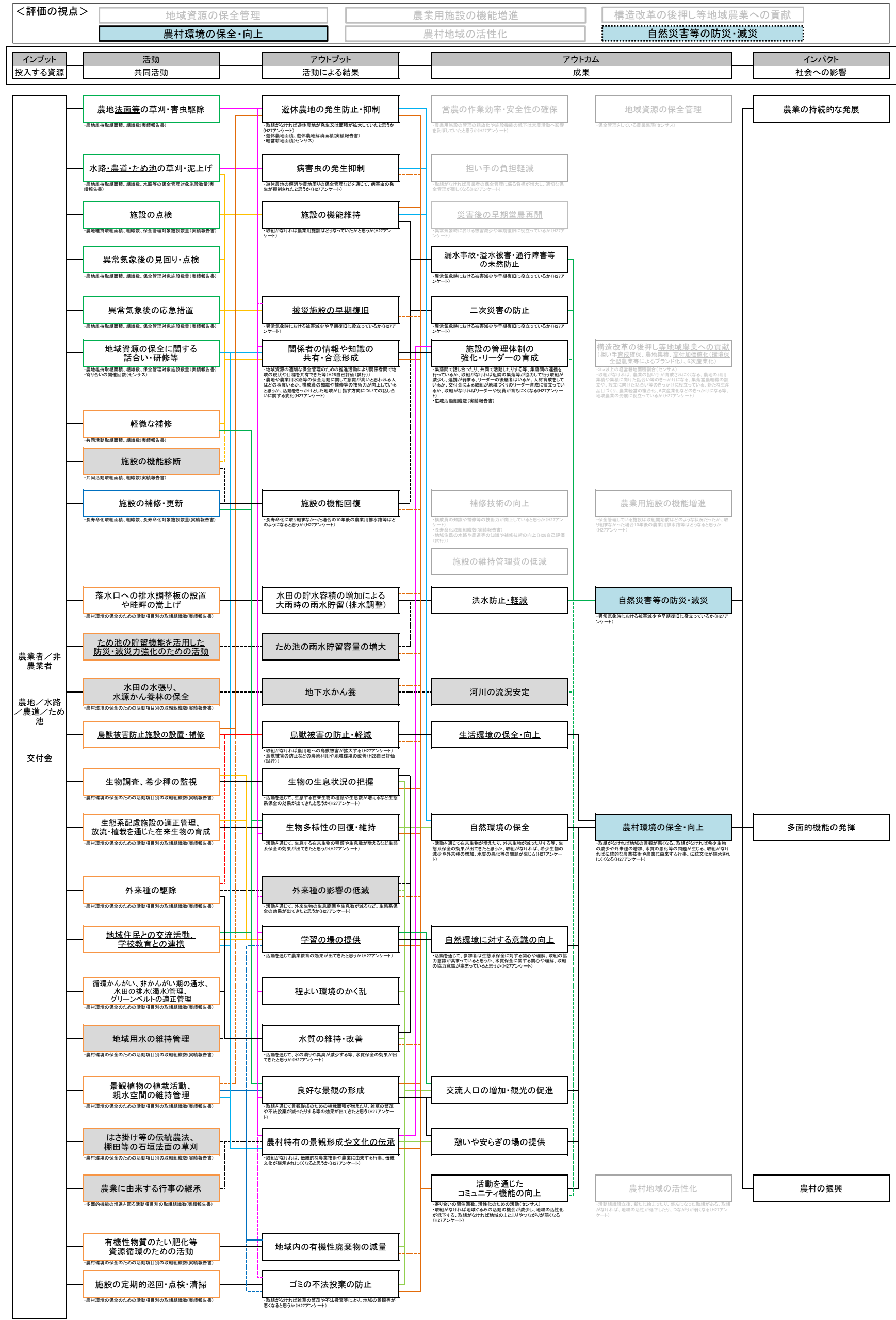
5. ロジックモデル(案)
全ての視点を踏まえたロジックモデル(案)



5. ロジックモデル(案)
(参考)各視点に着目したロジックモデル(案)



5. ロジックモデル(案)
(参考)各視点に着目したロジックモデル(案)



5. ロジックモデル(案)
全ての視点を踏まえたロジックモデル(案)

